

木材需給動向について (北海道地区)

令和3年7月
林野庁

目次

1 価格の動向

(1) 原木価格（原木市場・共販所）

ア スギ（全国）

イ スギその他（北海道地区）

(2) 製品価格

2 工場の原木等の入荷、製品の生産等の動向

(1) 製材（全国・北海道地区）

(2) 合板（全国）

(3) チップ（全国）

3 住宅着工戸数の動向

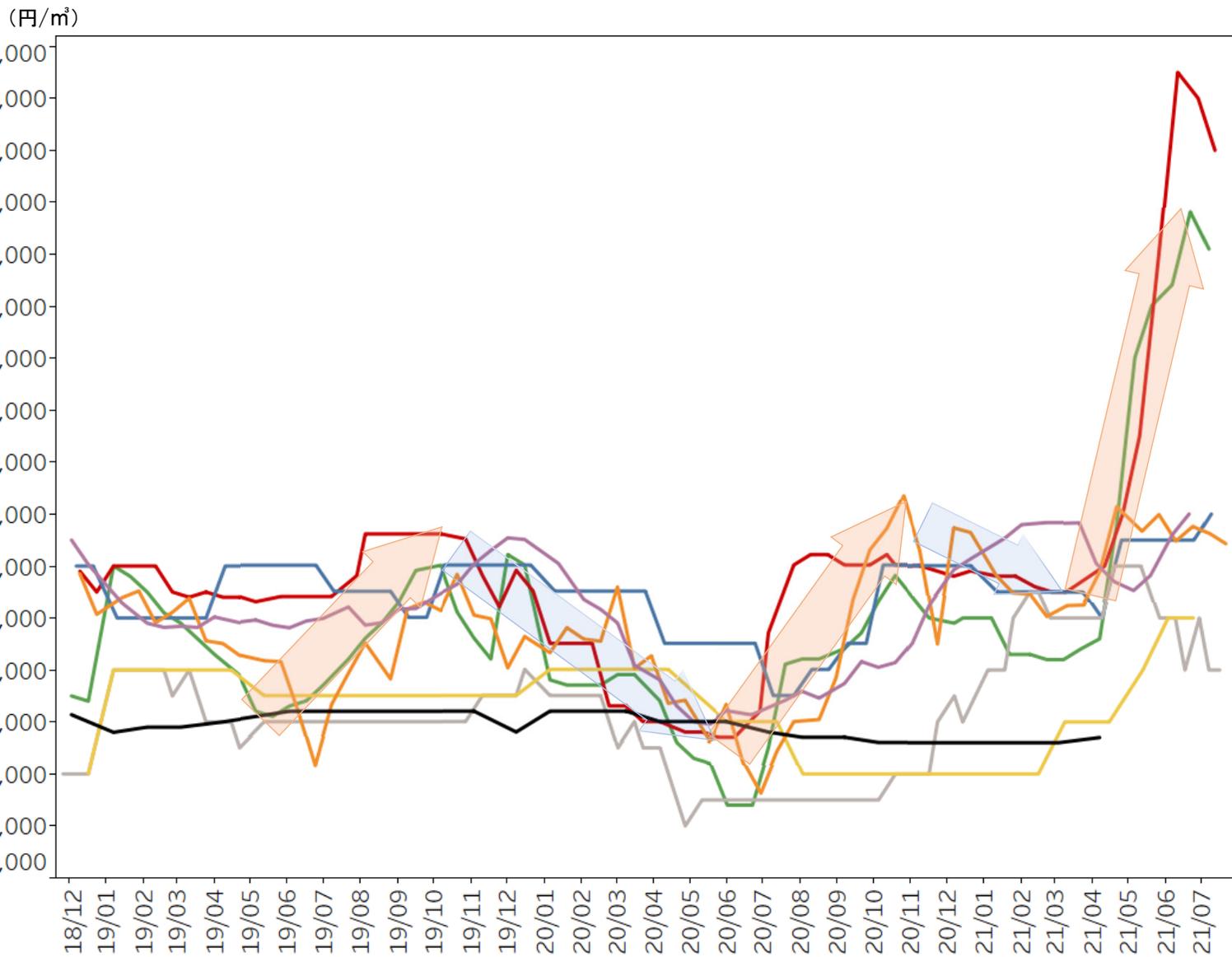
(1) 全国の住宅着工戸数

(2) 北海道地区の住宅着工戸数

1 価格の動向 (1) 原木価格 (原木市場・共販所)

ア スギ (全国) 径24cm程度、長3.65~4.0m (平成30年12月~)

- 令和3年に入ってから、例年であれば春から梅雨時期にかけて原木価格が下落する時期にもかかわらず、4月以降、上昇が見られる地域が多く、九州地域では価格が高騰している。
- 令和3年7月のスギ原木価格は、前年同期比9%から91%増となっている。



都道府県	R3年 7月*	前年 同期	前年 同期比
北海道	10,700	11,000	-3%
秋田県	15,000	11,130	35%
栃木県	14,430	11,930	21%
長野県	13,000	11,000	18%
岡山県	12,000	11,000	9%
高知県	15,500	11,500	30%
熊本県	22,000	12,700	73%
宮崎県	20,100	10,500	91%

※令和3年7月における直近の値。ただし、当該月の値がないため、北海道又は秋田県、長野県については4月又は6月の値を使用。

注1：北海道はカラマツ（工場着価格）。

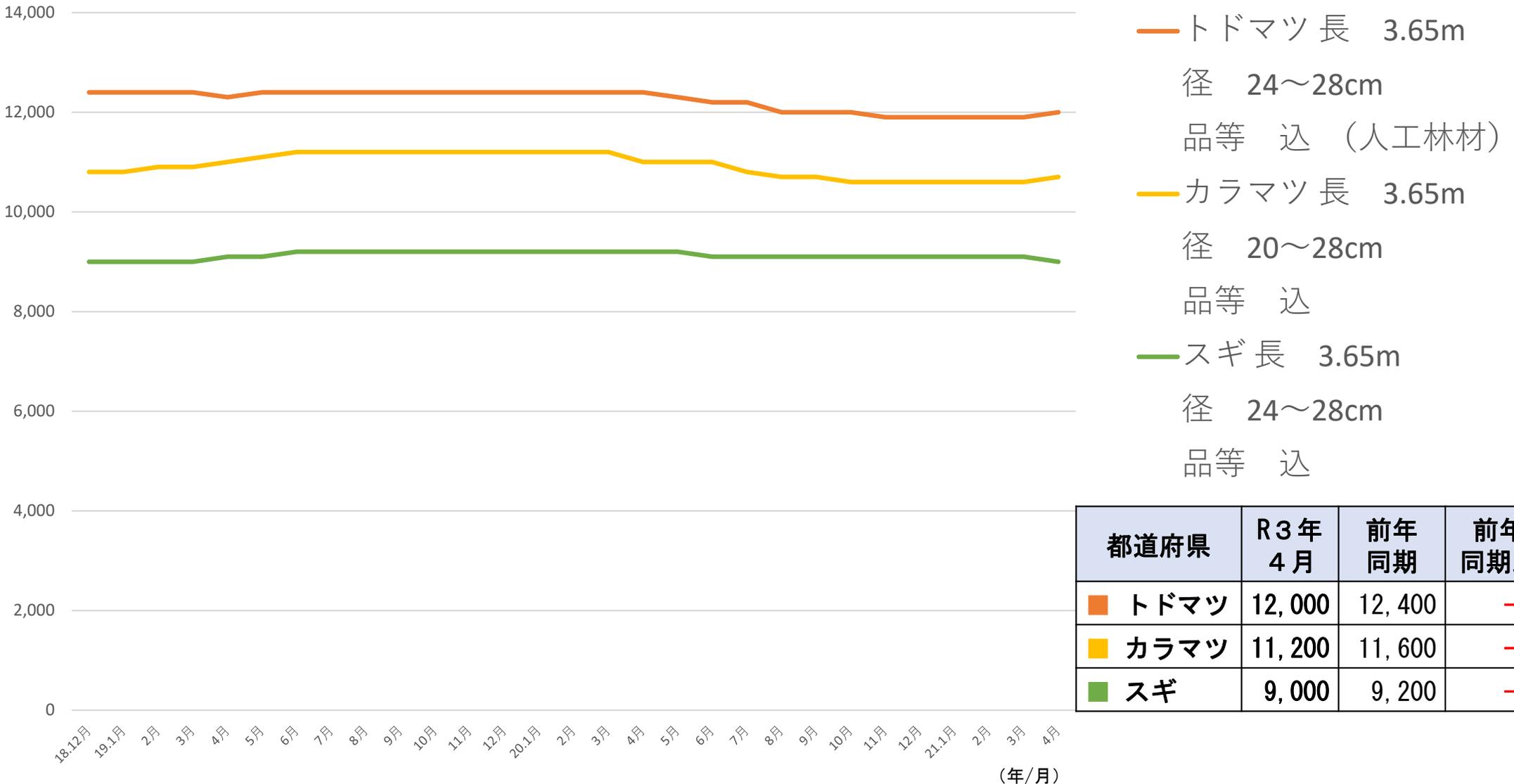
注2：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。

資料：林野庁木材産業課調べ

イ スギその他（北海道地区） 径24cm程度、長3.65～4.0m（平成30年12月～）

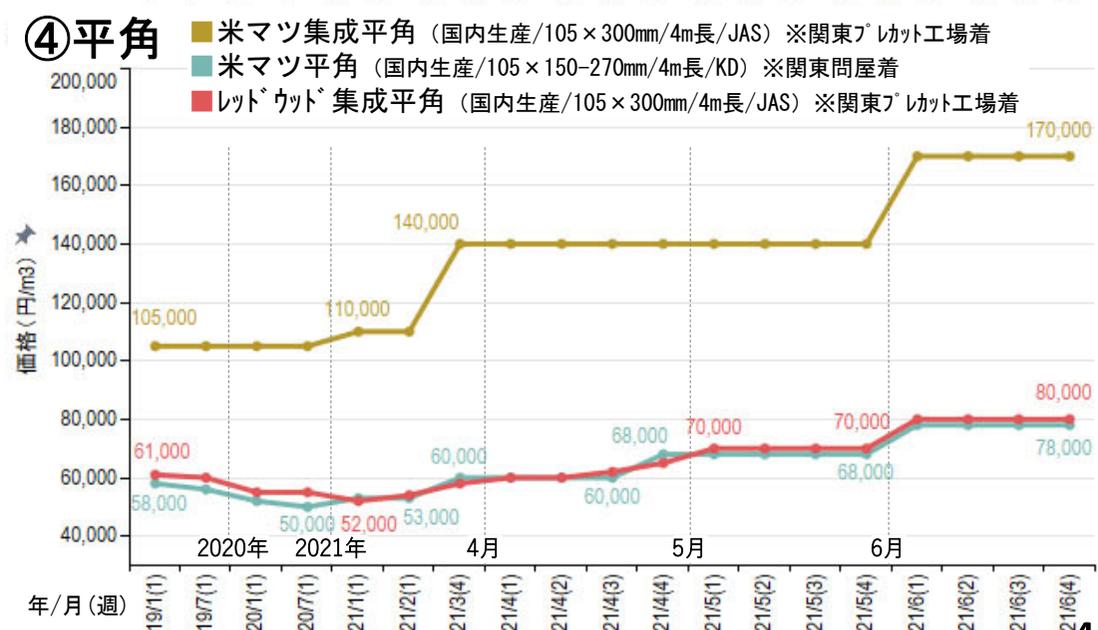
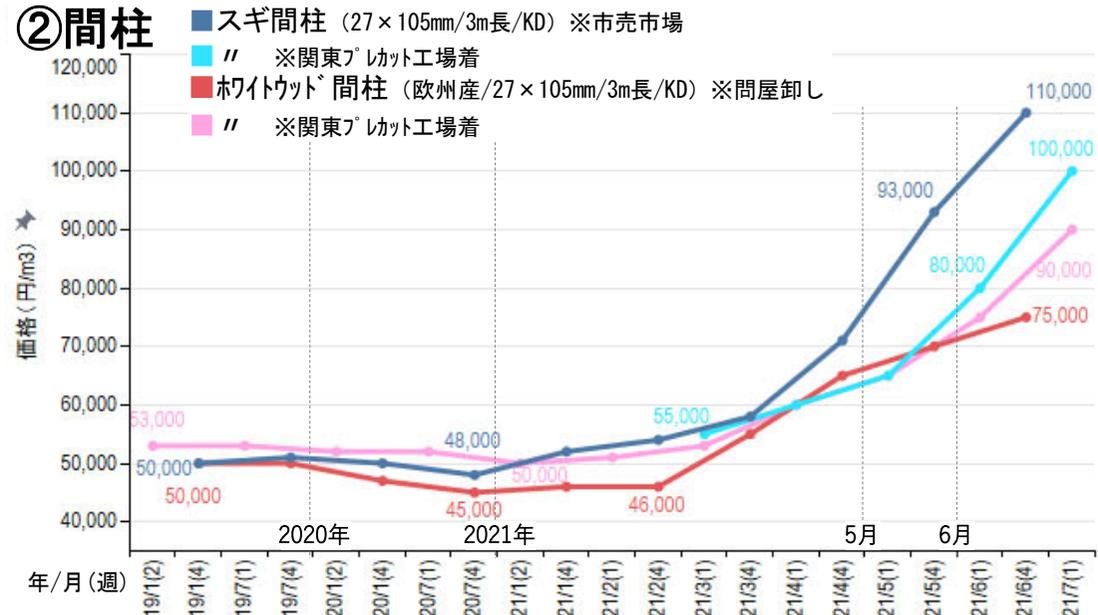
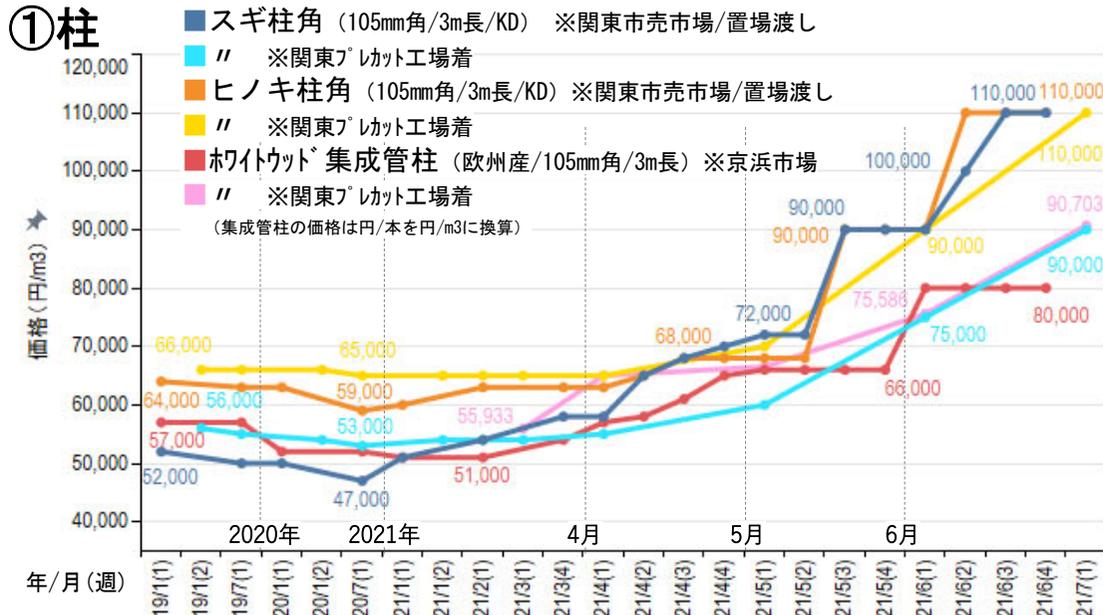
・トドマツ、カラマツ、スギ共に季節変動が無く、価格は概ね横ばいだが5月以降徐々に下落傾向が見られる。

原木市場・共販所における木材価格の推移



(2) 製品価格

- 輸入材製品価格は、北米における住宅着工戸数の増加、中国の木材需要拡大、世界的なコンテナ不足による運送コストの増大等により高騰。
- 国産材の代替需要が発生し、国産材製品価格も上昇。

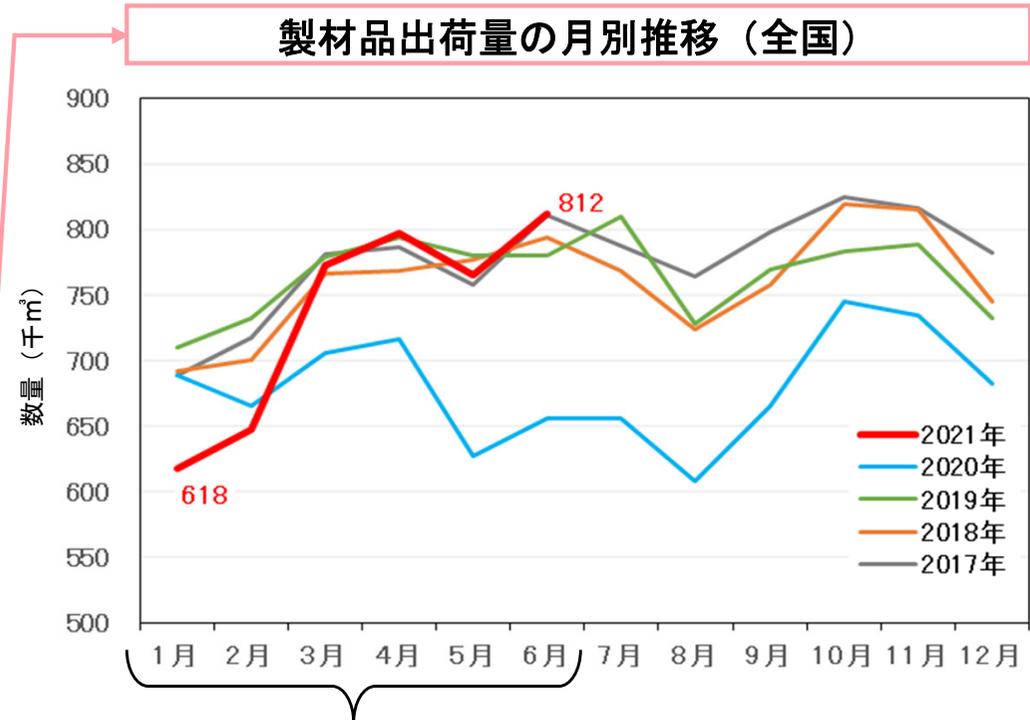
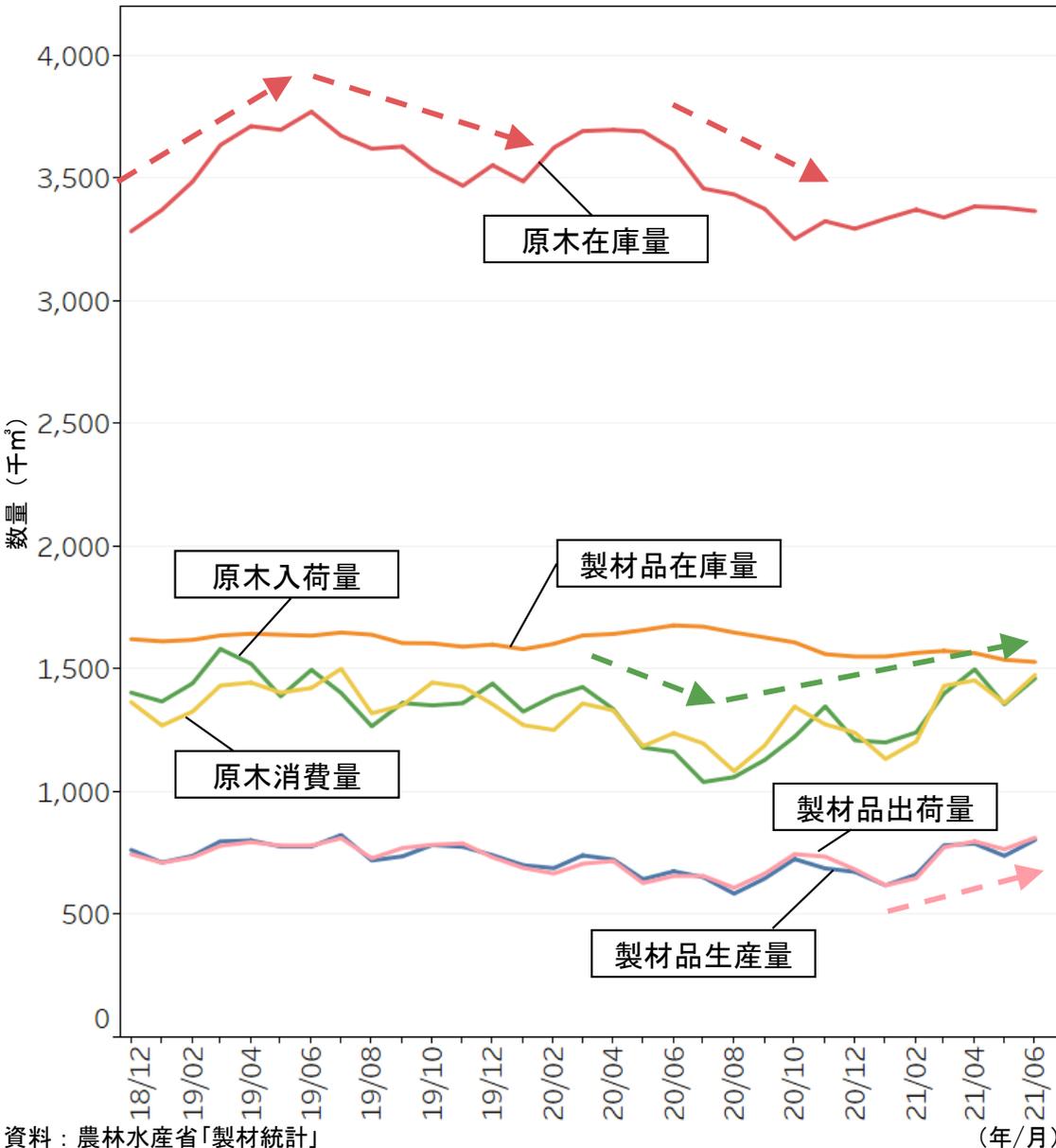


資料：①③④木材建材ウイクリー、①②日刊木材新聞

2 工場の原木等の入荷、製品の生産等の動向

(1) 製材 (全国)

- 製材品の生産量及び出荷量は、令和3年1月から増加傾向。5月は減少したものの6月は増加に転じ、コロナ禍前の水準となっている。
- 原木の入荷量及び消費量においても、令和3年1月から増加傾向。5月は減少したものの6月は増加に転じた。

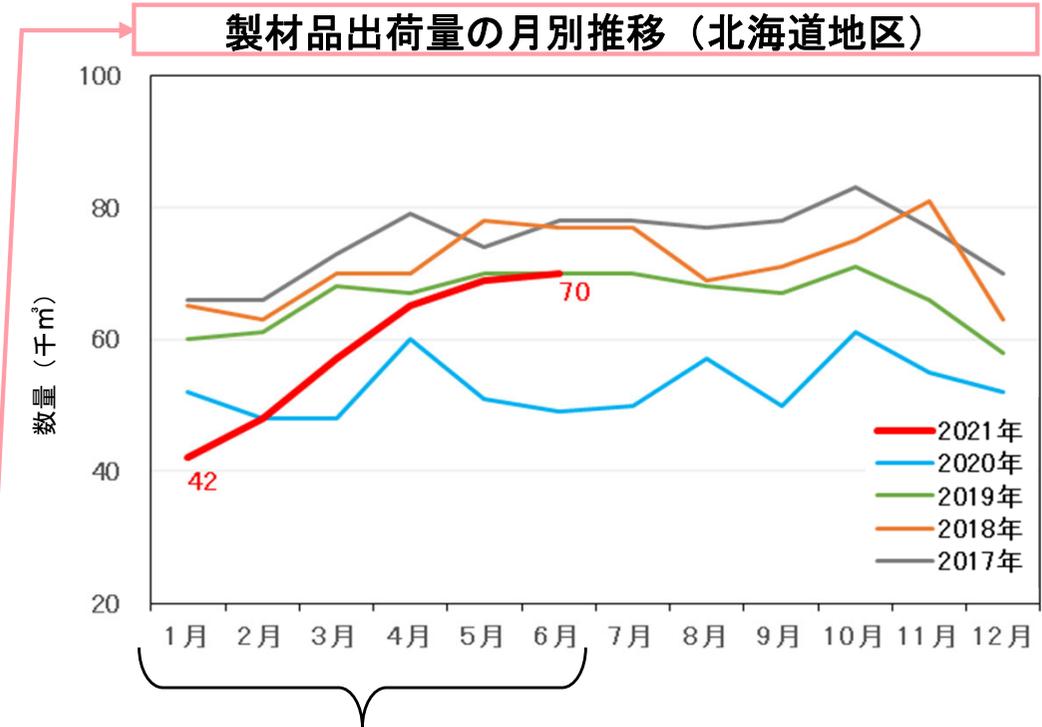
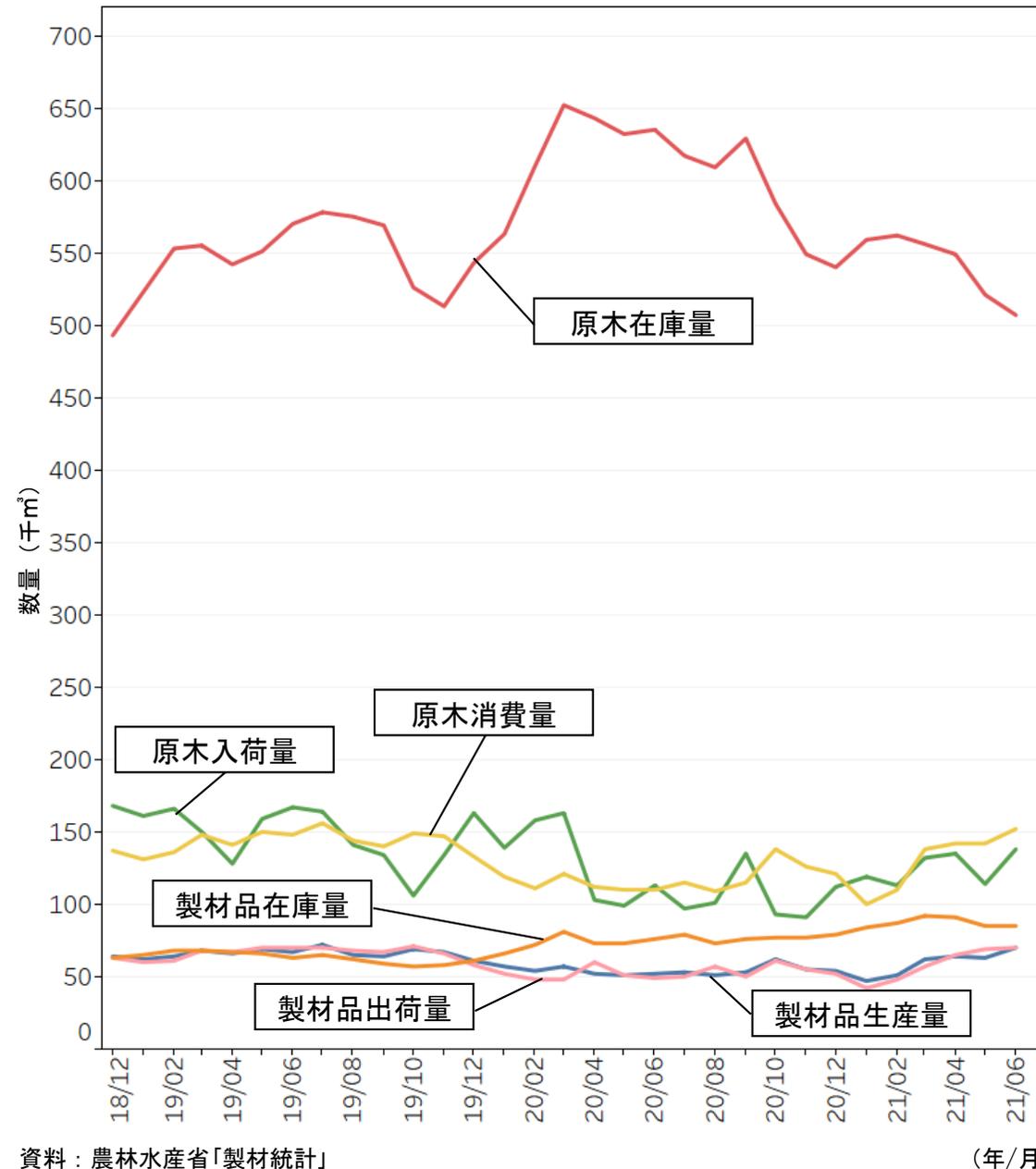


	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
1～6月出荷量 伸び率	18%	15%	10%	-5%	31%
1～6月出荷量 合計(千m ³)	4,544	4,498	4,575	4,061	4,412

資料：農林水産省「製材統計」

(1) 製材 (北海道地区)

- 北海道地区の製材品の生産量及び出荷量については、令和3年2月から増加傾向。1～6月期は輸入材の代替需要が発生したと思われるが、コロナ禍以前の水準には戻っていない。
- 原木の入荷量及び消費量は、令和3年2月から増加傾向。



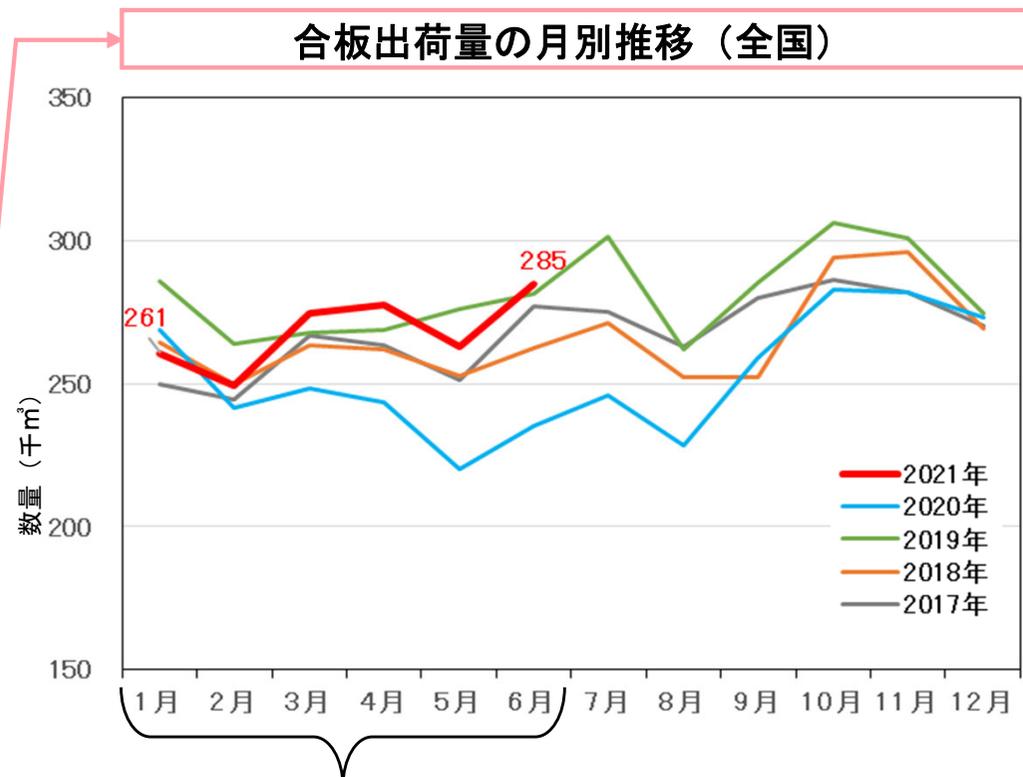
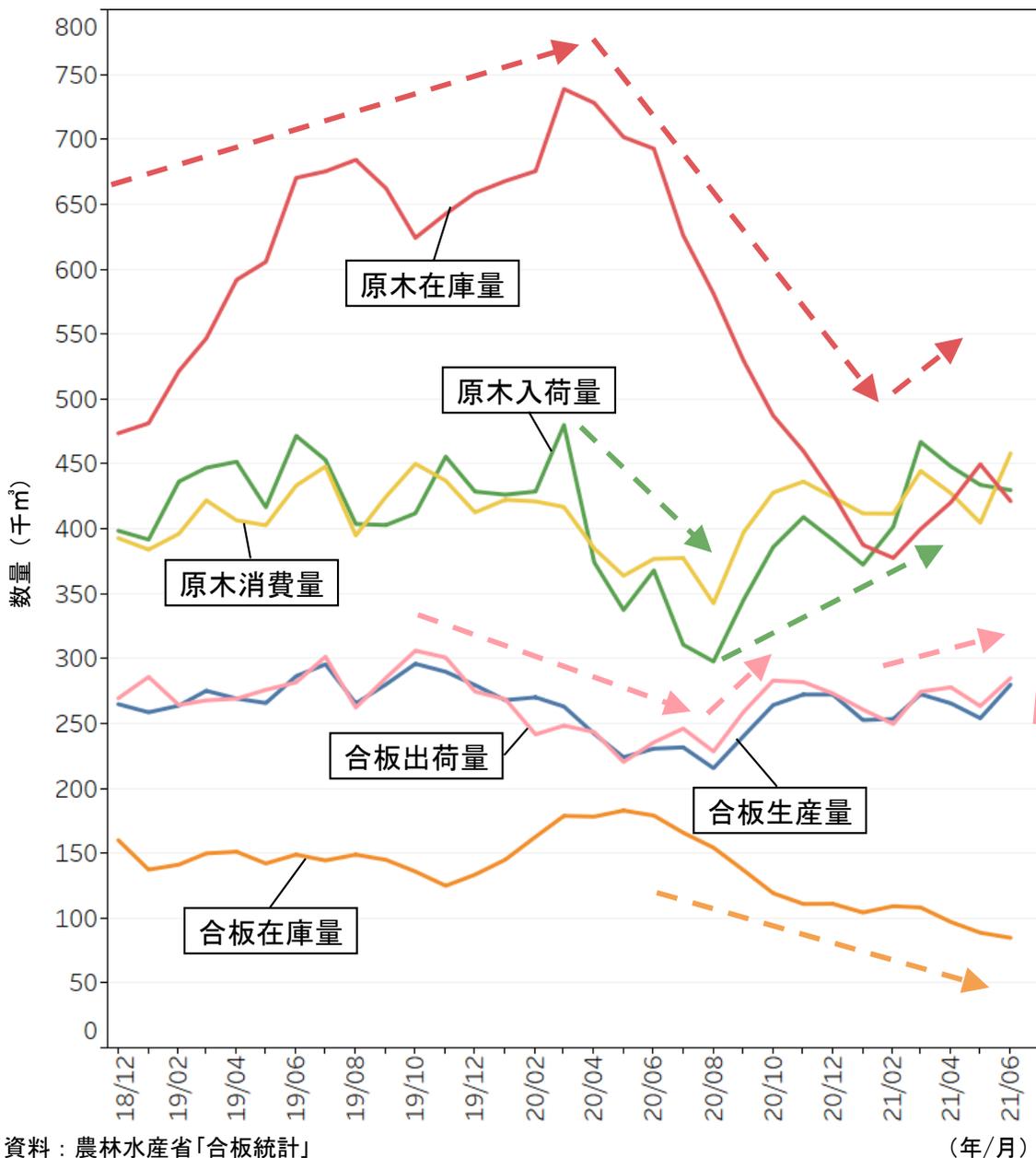
	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
1～6月出荷量 伸び率	18%	18%	17%	-6%	67%
1～6月出荷量 合計(千m3)	436	423	396	308	351

資料：農林水産省「製材統計」

(年/月)

(2) 合板 (全国)

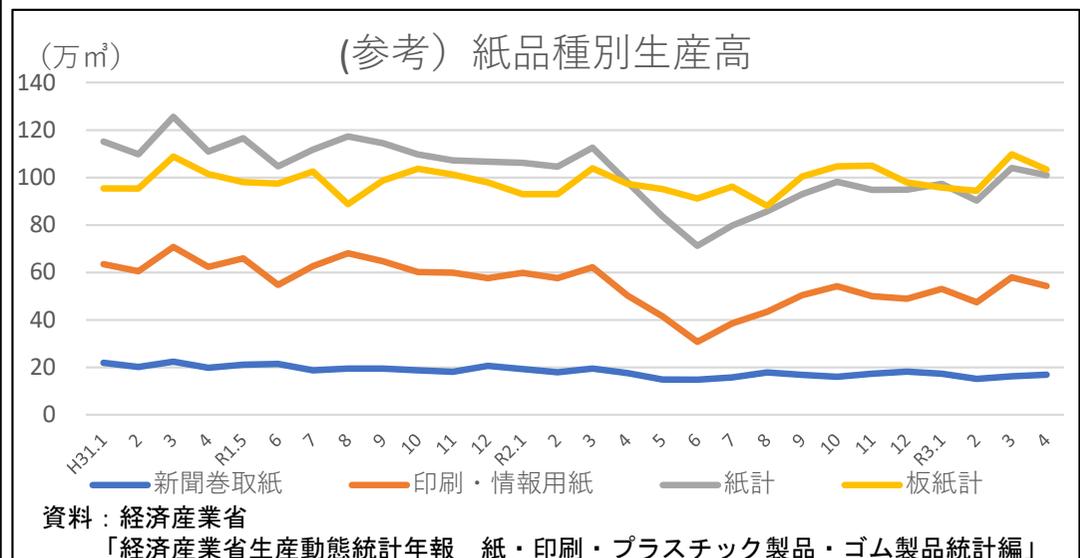
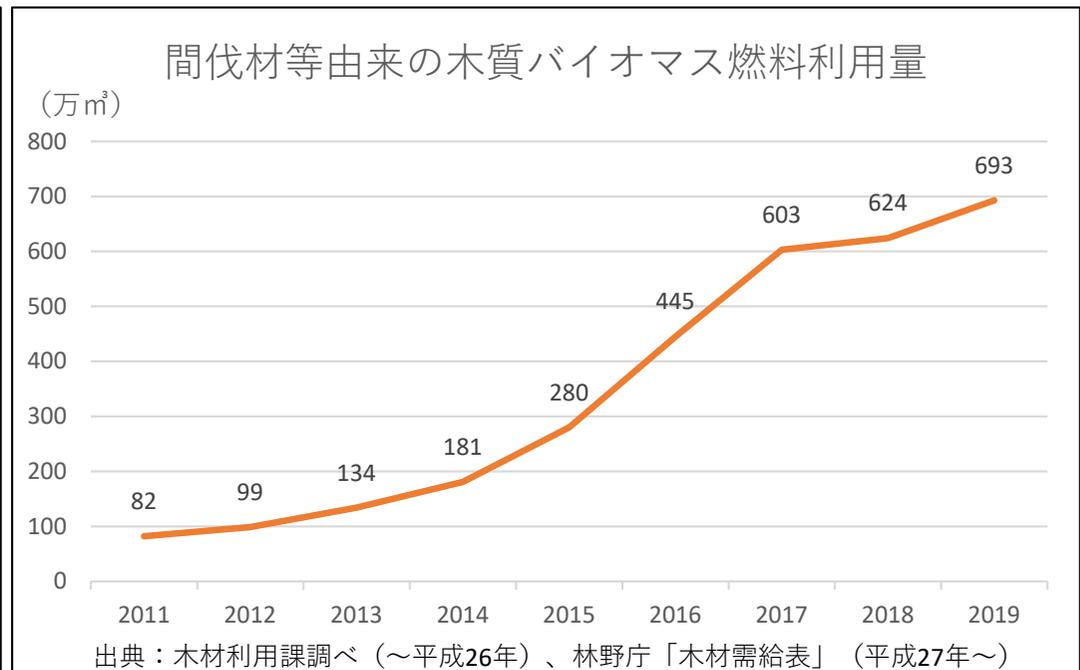
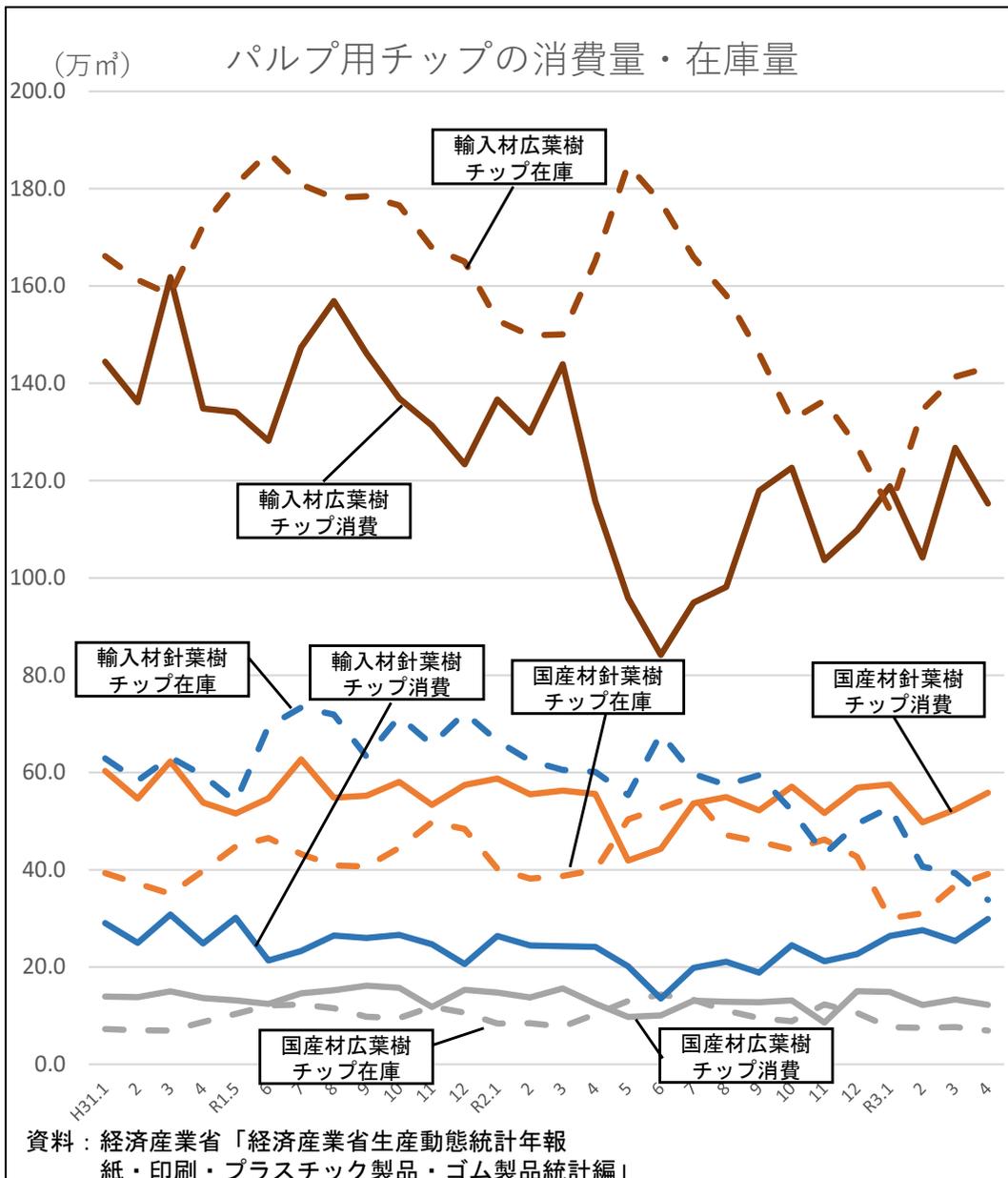
- 合板の生産量及び出荷量は、令和3年2月から増加傾向。5月は減少したものの6月は増加に転じ、コロナ禍前の水準となっている。
- 原木の入荷量・消費量は、令和3年5月に減少したが、原木消費量は6月は増加した。



	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
1～6月出荷量 伸び率	11%	-1%	-1%	-12%	9%
1～6月出荷量 合計(千m3)	1,553	1,555	1,644	1,457	1,610

(3) チップ (全国)

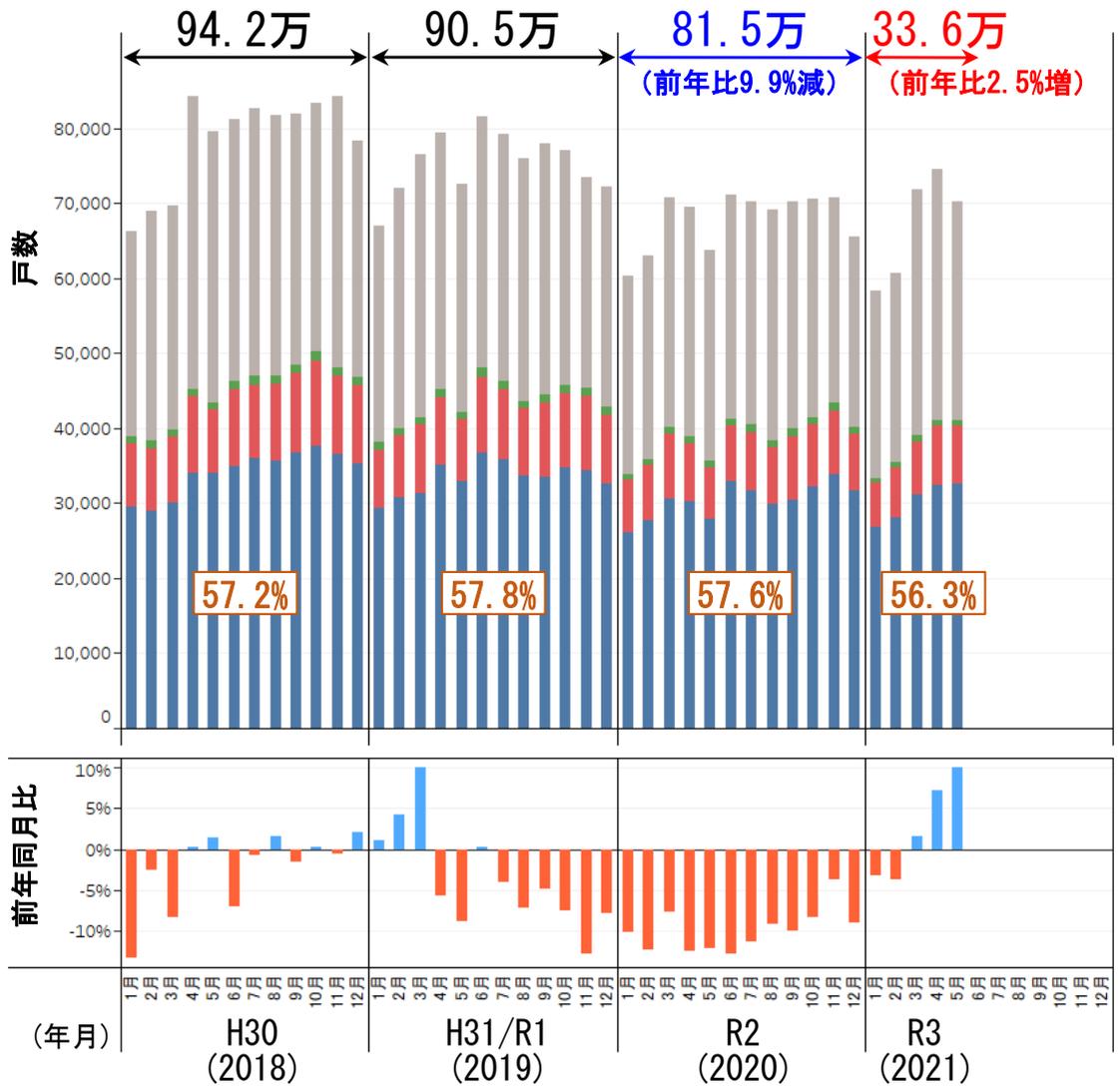
- パルプ用チップの消費について、輸入広葉樹チップの消費量は令和2年4月から6月まで激減した。その後は回復傾向。国産針葉樹チップの消費量は、令和2年5月に大きく減少したが、その後回復した。
- 木質バイオマス発電向け燃料は、増加傾向が続いている。



3 住宅着工戸数の動向（全国）（平成30年1月～令和3年5月）

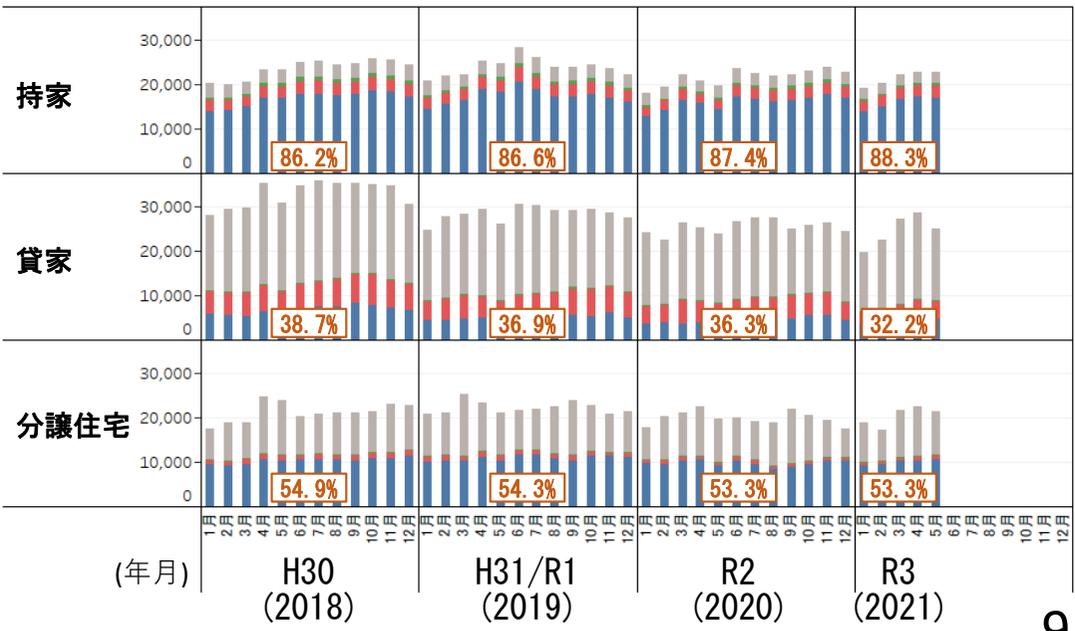
- 令和2年の新設住宅着工戸数は、81.5万戸（前年比9.9%減）、このうち木造住宅は46.9万戸（同10.3%減）。
- 令和3年1～5月の新設住宅着工戸数は、33.6万戸（前年比2.5%増）、このうち木造住宅は19.0万戸（同3.1%増）。
- 令和2年は緊急事態宣言の発令により、住宅展示場の来場者数が落ち込むなど大手・注文住宅の受注機会が大幅に減少したが、郊外の戸建住宅に需要が高まるなど全体としてはリーマンショック時ほどの落ち込み※は見られなかった。（※平成21年の新設住宅着工戸数は前年比28%減となった。）

新設住宅着工戸数の推移



構造別の着工戸数	R3年 1～5月	前年 同期	前年 同期比	前々年 同期	前々年 同期比
合計	335,698	327,582	2.5%	367,581	-8.7%
■非木造	145,630	143,287	1.6%	160,635	-9.3%
■木造	190,068	184,295	3.1%	206,946	-8.2%
■木造プレハブ	3,693	4,174	-11.5%	4,740	-22.1%
■2×4	35,234	37,461	-5.9%	42,494	-17.1%
■在来軸組	151,141	142,660	5.9%	159,712	-5.4%
□木造率	56.6%	56.3%		56.3%	

（参考）利用関係別の着工戸数（ただし、「給与住宅」を除く。）

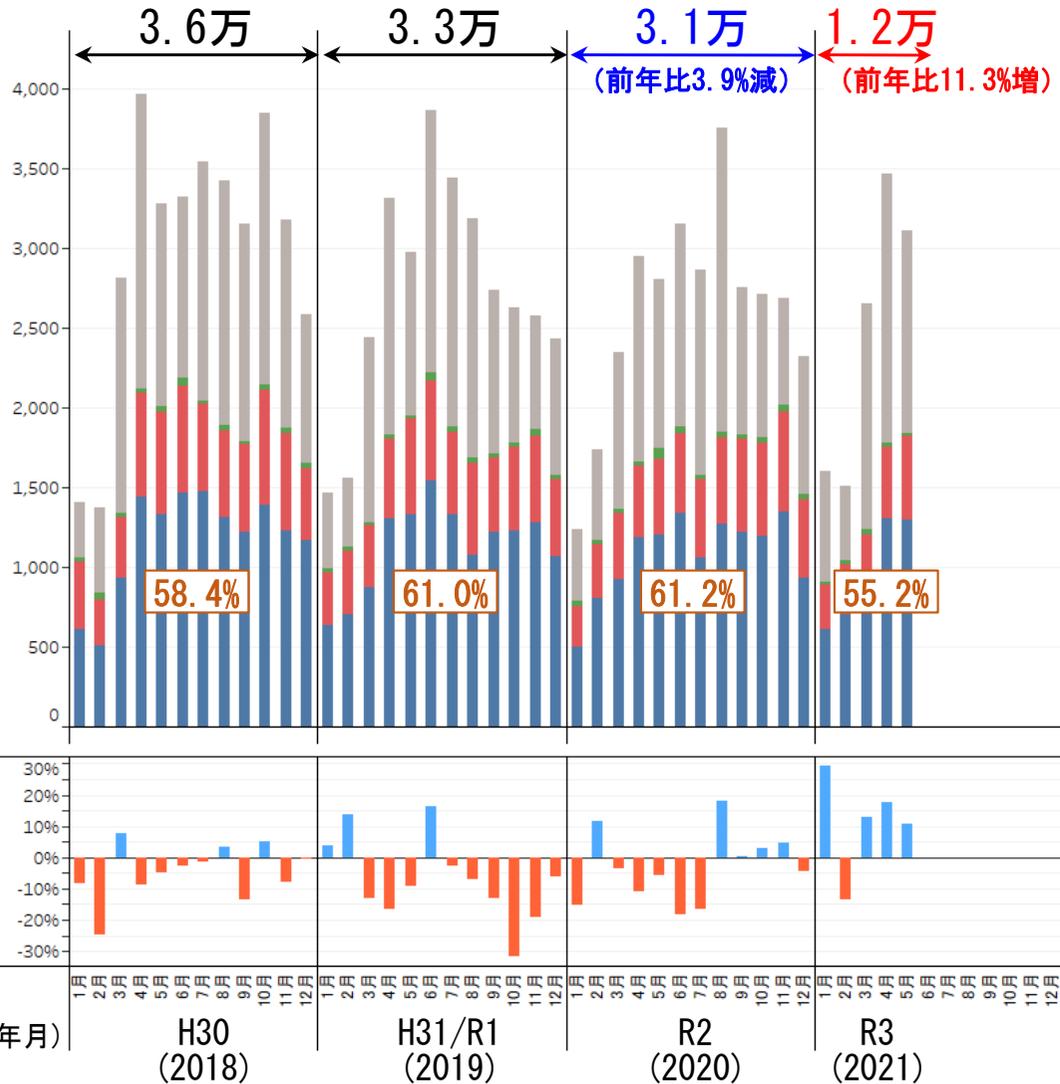


資料：国土交通省「住宅着工統計」

(2) 北海道地区の住宅着工戸数（平成30年1月～令和3年5月）

- 令和2年の新設住宅着工戸数は、3.1万戸（前年比3.9%減）、このうち木造住宅は1.9万戸（同3.7%減）。
- 令和3年1～5月の新設住宅着工戸数は、1.2万戸（前年比11.3%増）、このうち木造住宅は0.7万戸（同1.2%増）。

新設住宅着工戸数の推移



構造別の着工戸数	R3年 1～5月	前年 同期	前年 同期比	前々年 同期	前々年 同期比
合計	12,340	11,086	11.3%	11,760	4.9%
■非木造	5,525	4,353	26.9%	4,583	20.6%
木造	6,815	6,733	1.2%	7,177	-5.0%
■木造プレハブ	134	183	-26.8%	116	15.5%
■2×4	1,923	1,922	0.1%	2,207	-12.9%
■在来軸組	4,758	4,628	2.8%	4,854	-2.0%
□木造率	55.2%	60.7%		61.0%	

(参考) 利用関係別の着工戸数（ただし、「給与住宅」を除く。）

